

目 的

適切かつ効果的な職業訓練を実施していくため、個別の訓練コースについて訓練修了者等へのヒアリング等を通じ、訓練効果を把握・検証し、訓練カリキュラム等の改善を図る。

構 成 員

島根県地域職業能力開発促進協議会の構成組織のうち、
島根県、独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構島根支部、島根労働局

ヒアリング対象分野

「IT分野・デジタル分野・事務分野」（令和6年度第2回協議会にて決定）

- ①国の方針としてIT・デジタル分野の推進に重点を置いているため。
- ②島根県の地域性として、IT・デジタル分野の訓練実績が少なく、関連性のある事務分野も対象とした。
生成AIを始めとするIT・デジタル技術が発展する中で、事務分野の訓練カリキュラムが目指すべき方向性を検証する必要があると考えるため。
- ③全ての労働人口がデジタル技術を活用できるように、IT・デジタル分野以外の訓練においても「基礎的デジタルリテラシーの習得」が求められているが、具体的にどのような知識がどの程度のレベルで求められているのか、検証・分析して示すことが重要であると考えたため。

ヒアリング対象者・実施時期

- ①訓練コース：情報システム科（システムエンジニアコース2年）、WEBアプリ開発科（eラーニング6ヵ月）、
パソコン・経理資格取得コース（4ヵ月）
- ②対象訓練コース毎に、訓練実施施設、訓練修了生、訓練修了生採用企業の3者に対し、令和7年6月から7月にヒアリング実施。

島根県のヒアリング実施結果概要【① 訓練実施機関】

訓練実施にあたって工夫している点や力を入れている点

【個別指導】

- 毎日の課題、提出物チェックによる習熟度評価を行い、必要と判断すれば補習を行う
- 週1回の対面指導では、受講生のサポートが足りないと考え、週4回でのオンライン質問受付、訓練時間外でのチャット対応もしている。
- 就職相談を定期的に実施、希望職種に応じた情報提供を行う（受講生に求人票を持参させる）
- 最低限の知識を保有している証明にもなるため資格取得支援はしっかり行っている。

【カリキュラムの工夫】

- 就職に直結する内容の重視している
- IT実務経験を持つ講師による授業
- HW、市役所と連携のうえ面接練習や就職支援をしている。
- 過去の修了生が就職した地元企業との関係性を深めている
- 社会人としての一般常識の学習（コミュニケーション能力やヒューマンスキル等の人間力）
- 自己を客観的に捉えるための自己分析ツール、自己管理簿などの作成

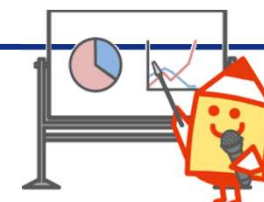
訓練実施にあたって課題を感じる点

- 精神的な病気がうかがえる訓練生のケアについては、実施機関のみでの対応は難しい
- 就職意欲の低い受講生への対応。

訓練実施にあたって国への要望や改善して欲しい点

- CMなどの広報を通じて職業訓練にもっと付加価値をつけて欲しい。
- もっと多くの方がこの制度を知り活用してほしいため、職業訓練のPR
- 受講者数が安定していないため訓練実施経費の見直しの希望（1人単価ではなく月単価を希望）
- 受講生への就職のための職業訓練であることの意識付け

- 受講生のレベルのバラツキに対し、個々の就職に向けた支援が工夫されている。
- 受講者が不足し、周知の要望が、各実施機関で希望されている。



島根県のヒアリング実施結果概要【② 訓練生採用企業】

訓練により得られた
スキルで採用後に役
立っているもの

- 打ち込み等、**PC基本操作**（P C訓練生採用）
- 複数言語対応、応用力のIT基礎知識（2年訓練採用）
- 特にメインとなるRuby、javaなどプログラミング能力（2年訓練採用）

習得しておくことが
望ましいスキル、採
用したい人材に求め
る技能スキル

- スキルよりも、やる気や意気込み、**人間力など気持ちの部分**が大切
- チーム業務を行える経験
- **コミュニケーション能力、ビジネスマナーや礼儀**など、社会人として必要なスキル
- チャットG D P、生成A I
- 情報系の基礎知識を幅広く学んでほしい
- 一つの言語でも構わないので基礎をしっかり理解できていることが望ましい
- 中途採用には即戦力を求めている

カリキュラムに力を
入れてほしい点

- 自己啓発系の講義やビジネスマナー
- 業務内容は各社によって多様なため、企業を知ってもらうための職場体験を行ってほしい。
- チームでのもの作りの機会、グループ開発の経験を増やしてほしい

その他の意見

- I T人材が不足しているため、**受け入れ生徒を増やし、多くの人材を育成してほしい。**
- **職業訓練に詳しくないが**、職業訓練の受講生の受け皿に少しでもなればとは考えている。

- 受講生との関わり（職場体験など）を希望されている。
- I T人材の不足から受講生の増員希望
- 「職業訓練に詳しくない」←訓練修了生の就職の後押しになっていない。



島根県のヒアリング実施結果概要【③ 訓練修了者】

訓練内容のうち就職後に役立ったもの

- Word、Excel（基礎＋実用）、簿記、コミュニケーション能力（PC・経理資格取得コース）
- Ruby on Rails、Java実習、卒業研究などの実践
- I Tの基礎知識
- 訓練校で学んだ全体的な知識が全て役立っている

就職後にあまり活用されなかったもの

- なし。訓練で習ったすべてのことが役に立っている。

訓練で学んでおいた方が良かったと思われるスキル

- 言語はある程度応用がきくので、複数の言語を学ぶより、数を絞った方が良いと思う。
- 訓練中のメールやチャットも仕事での仕様を意識すると良い
- Docker等の仮想環境に関する知識。

訓練施設への改善点と要望

- 余裕がなかった。訓練期間がもう少し長いほうが良かった（4ヵ月訓練受講）
- オンラインでの発言は慣れるまで難しく、強制的に発言させるなど工夫があっても良かった。
- オンラインではなく通所で学びたかった。
- 学習意欲が低い学生だけでなく、全体に先生が関わってほしかった。

その他意見

- ハローワークで説明を受けるまで職業訓練の存在を知らなかった。より多くの人に知ってもらえるようにするとよい。
- 離職前に訓練申込みができるようになればよい。

- 訓練に対しての大きな不満はない。⇒訓練の内容（訓練期間）によって希望に添った受講が出来ている。
- 職業訓練の周知の声がある。



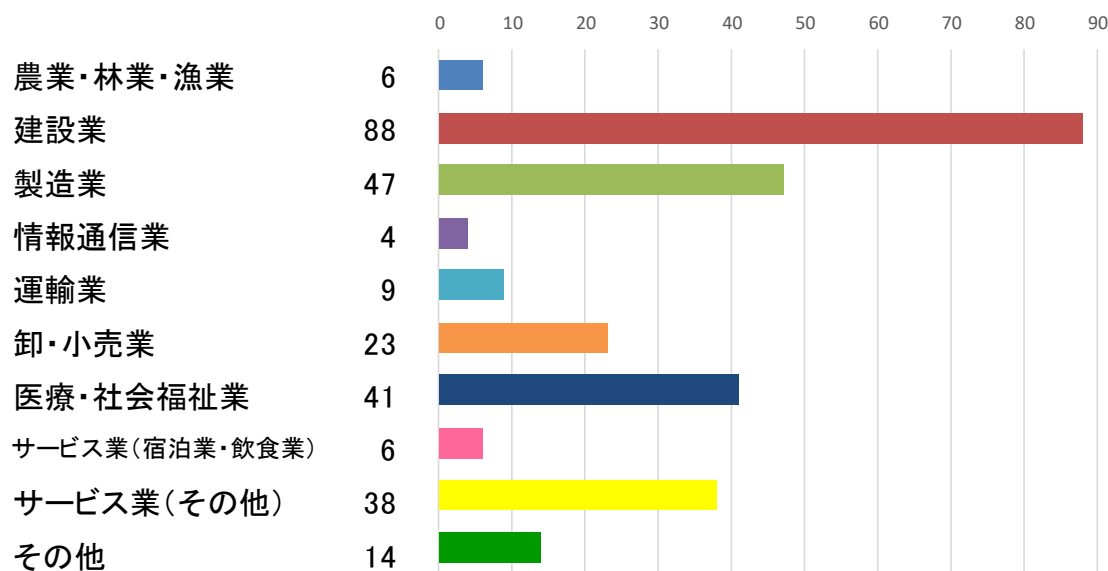
令和7年度 職業訓練設定ニーズに関するアンケート調査（企業アンケート①）

企業アンケートの結果

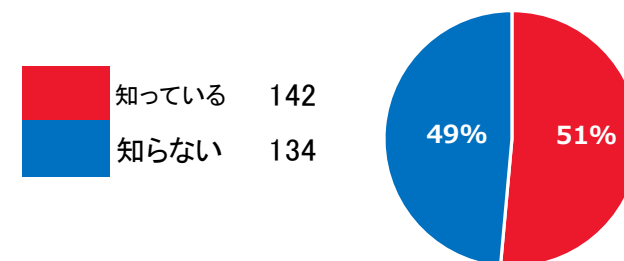
【調査方法等】

目 的	地域の訓練ニーズの設定に関する情報を把握し、関係機関との連携を図り、公的職業訓練の総合的な訓練計画の策定に向けた基礎資料とするため調査する。
対象者	ハローワークに求人を提出している事業所
調査期間	令和7年6月9日（月）～6月30日（金）
方 法	Web方式
回答数	276社

1. 貴社の業種を次の中から選んでください



2. 公的職業訓練（ハロートレーニング）をご存知ですか？



- （1）アンケート回答数が最も多いのは建設業、続いて製造業、医療・社会福祉業だった。
- （2）ハロートレーニング（公的職業訓練）の認知度は、51.0%。ほぼ半数の企業に認知されていない状況であった。

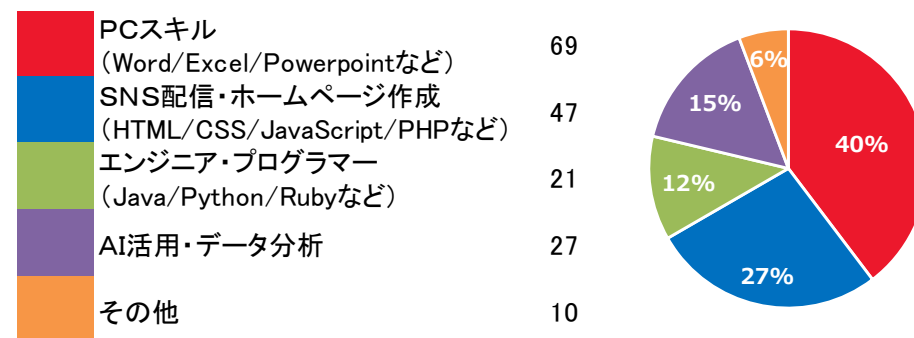
令和7年度 職業訓練設定ニーズに関するアンケート調査（企業アンケート②）

3. 職業訓練受講者の採用をしたいと思いますか？



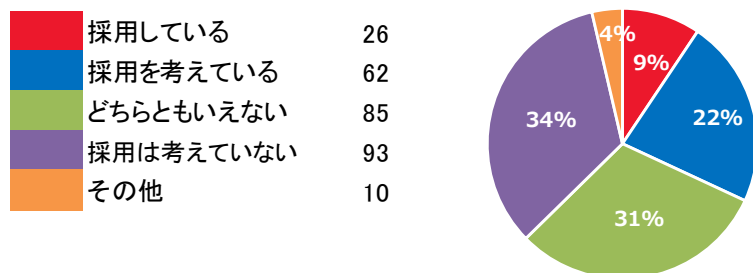
- (1) 採用したいが、全体の64.0%。
 (2) どちらともいえない34.0%の理由としては、「**訓練の内容、詳細をしらないため**」が半数あった。

4. 採用している、採用を考えている に回答いただいた方は、求める技術・能力について教えてください。



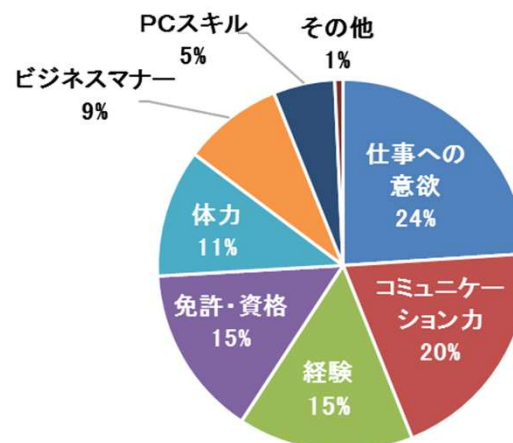
- (1) PCスキル40.0%、SNS配信27.0%であった。

5. ITデジタル化についてお尋ねします。貴社でIT・デジタル人材の採用状況はどのような状況ですか。



- (1) どちらともいえない31.0%、採用は考えていない34.0%の理由としては、「**必要性がない、業務での活用がない、採用予定がない**」54.0%であった。

6. 採用時に求める資質・能力について次の中から選んでください。（複数回答可）



- (1) **仕事への意欲** 24.0%、**コミュニケーション力** 20%

令和7年度 職業訓練設定ニーズに関するアンケート調査（求職者アンケート①）

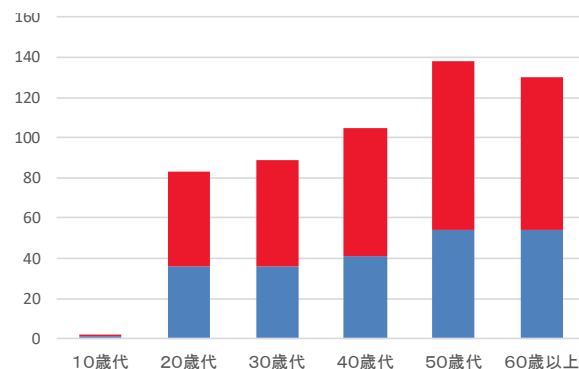
求職者アンケートの結果

【調査方法等】

目 的	地域の訓練ニーズの設定に関する情報を把握し、関係機関との連携を図り、公的職業訓練の総合的な訓練計画の策定に向けた基礎資料とするため調査する。
対象者	ハローワークに求職申込中の者
調査期間	令和7年6月9日（月）～6月20日（金）
方 法	窓口での配付
回答数	547人

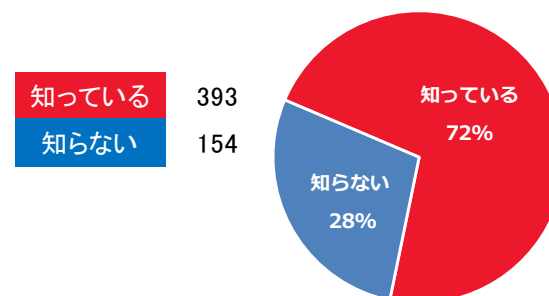
1. 求職者の年齢・性別

	男性	女性	計
10歳代	1	1	2
20歳代	36	47	83
30歳代	36	53	89
40歳代	41	64	105
50歳代	54	84	138
60歳以上	54	76	130
計	222	325	547



（1）50歳から60歳以上が最も多く、また女性の割合が多い。

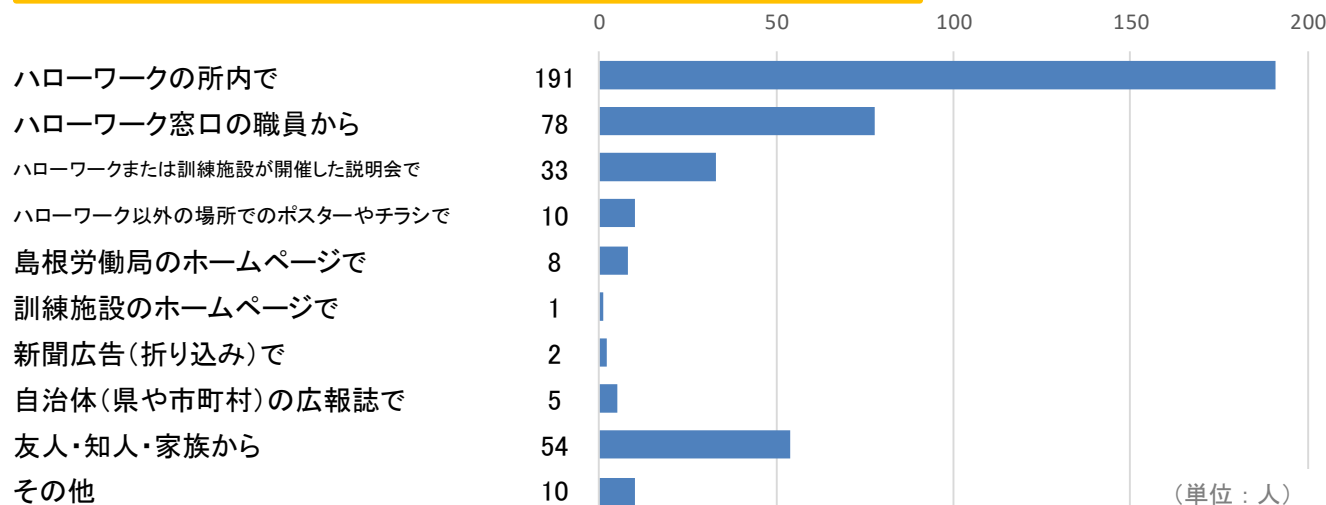
2. 公的職業訓練（ハロートレーニング）をご存知ですか？



（1）知っているが72.0%

令和7年度 職業訓練設定ニーズに関するアンケート調査（求職者アンケート②）

3. 職業訓練をどのような方法で知りましたか？



(1) 70%近い人がハローワーク所内、窓口職員から職業訓練の存在を知る。
 (2) 機会があれば訓練を受講希望する人は29%であった。
 また、訓練を希望しない理由としては、「すぐに就職したいから」48%、「職業訓練を良く知らないから」19%であった。

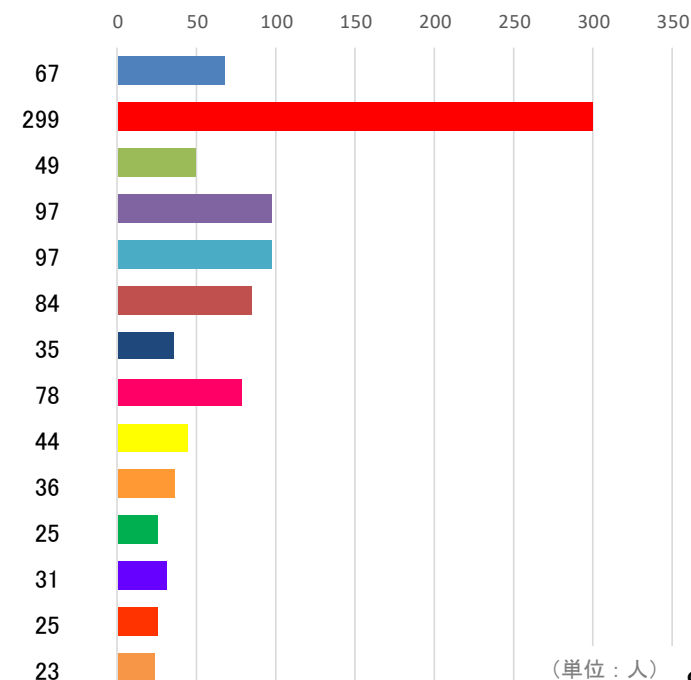
4. 受講したい訓練コースを3つまで選んでください。

(1) 1番人気は「パソコン分野 (Word、Excel、PowerPoint)」30%
 次いで、Webデザイン、経理事務・簿記、医療事務が人気順

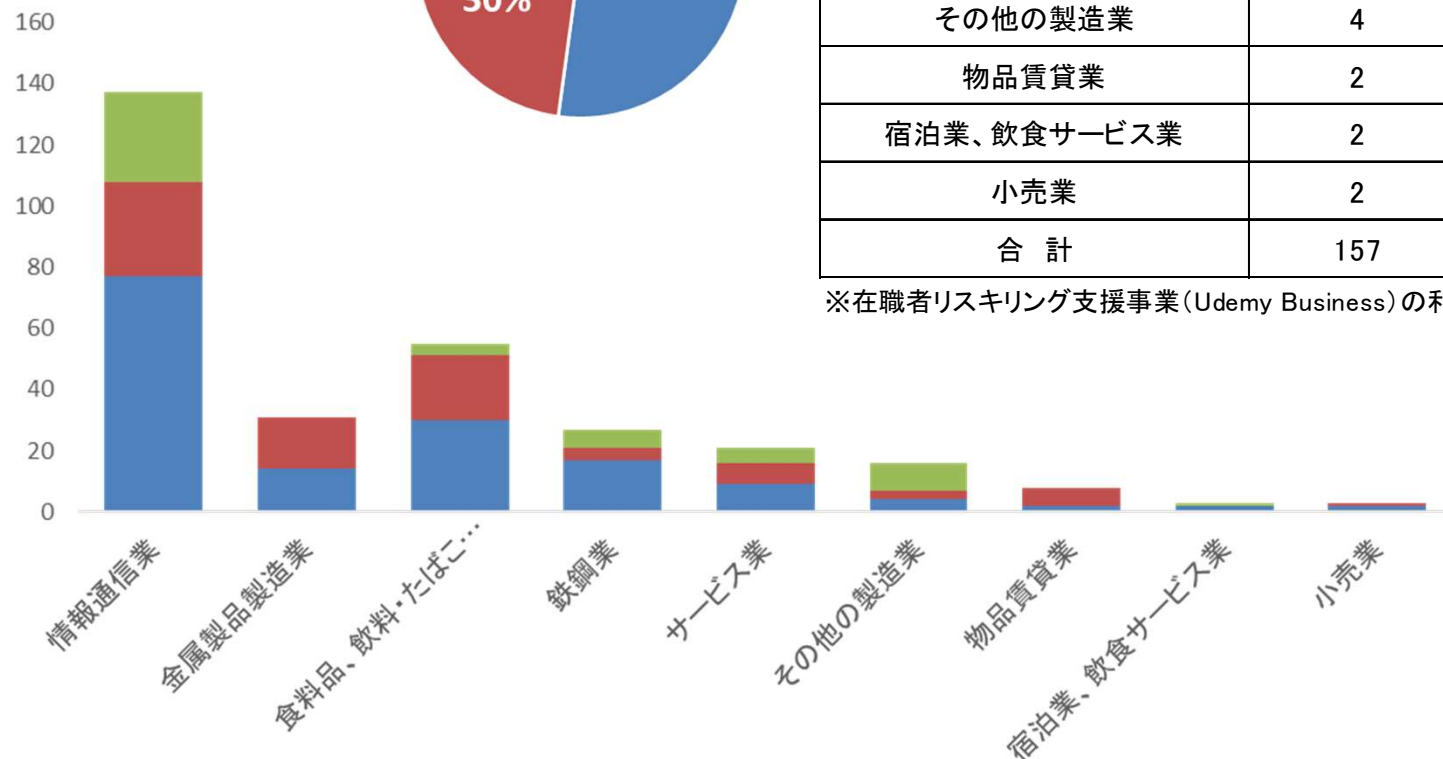
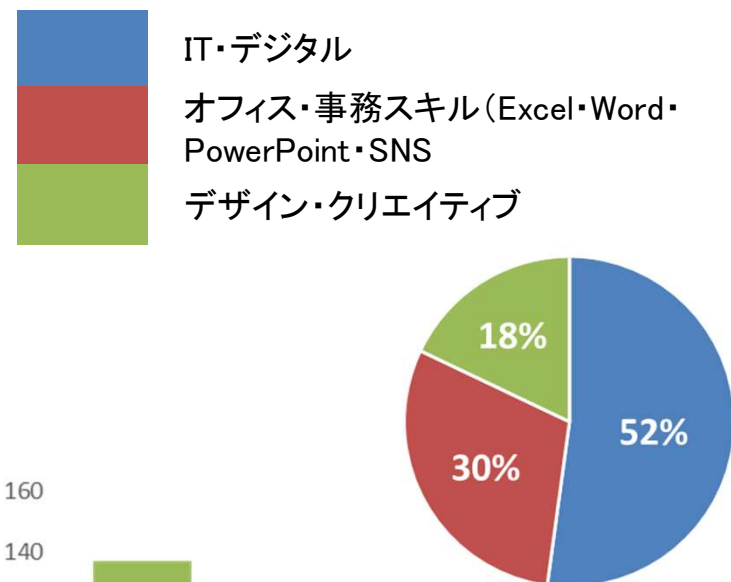
【その他の声】

- ・ 選択できるコースを増やしてほしい
- ・ 定員を満たさないと訓練中止になるのが残念
- ・ 受講訓練をもっと宣伝した方がいい。

保育(子育て支援等)
 パソコン分野(ワード、エクセル、パワーポイントなど)
 SE、プログラマー
 WEBデザイン
 経理事務・簿記
 医療事務関連
 営業・販売関連
 介護・福祉関連
 運転関連(大型自動車など)
 電気関連(電気工事、電気設備工事、電気制御など)
 機械関連(汎用・NC工作機械加工、機会CADなど)
 建築関連(木造住宅施工、建築CADなど)
 設備管理関連(ビルメンテナンスなど)
 溶接・板金関連



島根県内の在職者の制度利用状況（島根県在職者リスキリング支援事業）



令和6年度IT・デジタル分野受講数

(単位:社)

利用者の産業分類	IT・デジタル	オフィス・事務スキル(Excel・Word・PowerPoint・SNS)	デザイン・クリエイティブ	合 計
情報通信業	77	31	29	137
金属製品製造業	14	17	0	31
食料品、飲料・たばこ・飼料製造業	30	21	4	55
鉄鋼業	17	4	6	27
サービス業	9	7	5	21
その他の製造業	4	3	9	16
物品賃貸業	2	6	0	8
宿泊業、飲食サービス業	2	0	1	3
小売業	2	1	0	3
合 計	157	90	54	301

※在職者リスキリング支援事業(Udemy Business)の利用者データ集計

(1) IT・デジタル関係のコースが最も受講が多い(その内56%は情報通信業)

(2) **訓練種類は205種類**。企業に合わせた様々なコースが選ばれている。

ヒアリング・アンケート・在職者リスキリング制度利用結果から考える問題点

ヒアリング結果

- 求職者は、HW窓口にてカリキュラム内容（訓練期間）に合わせ訓練を選択できている。
- 受講生の個別支援が工夫され、訓練に対しての大きな問題はない。
- 受講生の不足**から実施機関の経費負担の不安定さがある。
- 企業が**職業訓練を詳しく知らない**ため、就職の後押しになっていない。
- 受講生の満足度が高いが、**HWに行くまで職業訓練を知らなかった**。

アンケート結果

- 求職者の回答（HW窓口）は50歳代、60歳代、40歳代の順に多い。
- 訓練を知ったきっかけはHW来所**。
- PC基礎（Word・Excel・PowerPoint）が人気
- 事業所の半数は職業訓練を知らない**
- 求職者へ求めるスキルはPC基礎が高い（67%）
- ITデジタル人材は「必要がない、採用予定がない」が65%。

在職者リスキリング

- 企業に合わせた多様な訓練が必要とされている。（301社受講、計205種類）
- IT・デジタル分野は、個人・企業のどちらにも活用できる支援メニューが相対的に厚く、受講環境は整っている。（人材開発支援助成金・教育訓練給付金等）

○島根の状況として、IT・デジタル分野よりもPC基礎のニーズが高い状況であった。

しかし、時代の流れ（DX・生成AI等）に合わせ、今後IT・デジタルの学びのベースアップ（底上げ）を検討していく必要性はある。

緊急性のある問題として

職業訓練の認知度の不足

職業訓練を知らない

求職者

就職・転職への不安
スキルUPなし

定着できない
就職できない
離転職を繰り返す

事業所

マッチング機会喪失
現状の人手不足

採用できない
人手不足

実施機関

未開講
少人数での開講
実習先の未決定

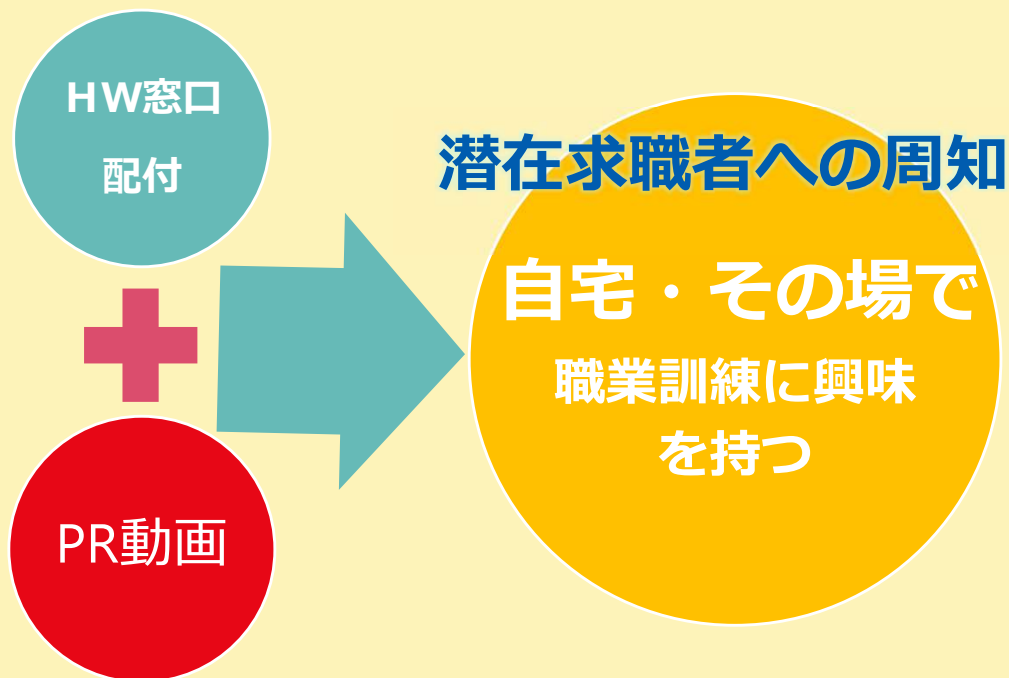
経費の不足
コース新設困難
採用に繋がらない

認知を広げる、周知広報の工夫について（改善案）

職業訓練周知動画の制作

訓練の魅力を「見える化」する動画を作成し、訓練の有効性を求職者・事業所の双方に伝え、**受講者や採用者の促進**に繋げる。

- ・ これまでは、HW来所者、チラシ配付での周知
- ・ 今、悩んでいるその時に、読むのではなく目で見て耳に入る動画で周知
- ・ 文字や紙媒体よりも理解しやすく、短時間で要件を伝えることができる



流れ

- ① 「**職業訓練全体の認知拡大**」を周知動画で先行し、母集団を拡大
- ② 各訓練コースでの周知動画、実施機関の動画の効果的な活用

想定される効果

- ① 求職者に「**自分も挑戦できる**」という安心感と期待感を与え就職に繋げる
- ② 企業に「**修了者採用のメリット**」をわかりやすく伝える
- ③ 実施機関に「**受講者数の安定**」により充実した訓練の提供。新たな訓練委託先の展開。

今後のスケジュール

周知動画の制作について

役 割

- ①認知を広げる
- ②期待感を醸成
- ③HW窓口（相談・申込み）への誘導

対 象

- ①求職者・在職者（転職を考える）
- ②企業（採用を考える）

公開・共有

YouTube、SNS（LINE、Instagramなど）で拡散
デジタルサイネージ、イベント会場での再生、
各実施訓練・関係機関への共有

コンセプト

「一歩を踏み出す」「学び直し」「就労への期待」
明るく、前向き、希望を持てる雰囲気

- ・ 1分～1分30秒程度
- ・ 口ずさめるポップなBGMで職業訓練の印象づけ
- ・ マスコットキャラクター「しじろー」「ハロトレくん」を活用し親しみやすさと信頼感を演出

メインメッセージ

職業訓練「ハロートレーニング」を受講して
新たな人生の扉を開きませんか？



今後の想定

- ・ 各機関の意見や資料を参考に制作。第2回協議会（R8年3月開催予定）で承認を得て、令和8年度より活用できるよう、各機関、HWへ動画提供予定
- ・ 令和8年度に活用し、さらなる改善、追加動画など制作を検討

